

東京方面見学会感想文

今回の東京研修は、私にとって良い経験になり、また、将来について考えることができました。

一日目のディレクトフォースでは、3人の方にお話しをいただきました。近藤さんのお話では、様々な視点から見ることの大切さを知りました。近藤さんは筋電義手を制作されているのですが、障害を隠すものとされていた義手を、個性としてとらえ、肌色以外の色を使い、材質を変える等工夫をたくさんされていました。「片手でもマイナスの無いように」と近藤さんはおっしゃっていました。実際に近藤さんの義手を障害のある方に使ってもらったところ、その人はなんと、他人から声をかけてもらったそうです。その話を聞いて、自分の作ったもので、人の雰囲気を変えられるのはすごいなと思いました。また、「使用者の意見を聞くことも大切だ」ともおっしゃっていました。どのような機能を付け加えたら良いか等、直すべきことを聞くのだそうです。将来、仕事をする上でも人と相談するのは大事だと思いました。前述のように、もともとは、障害を隠すものとされてきた義手を、個性にするために新しい方法を取り入れるのには抵抗があったそうですが、勇気を出して挑戦することができるのは並みの人ではできないと思います。私もそのような人になりたいと思います。

土井義範さんは、青年海外協力隊としてベトナムの町おこしをされたり、少子高齢化に携わったり、社会に関する知識を豊富にお持ちの方でした。海外に興味を持たれたきっかけは、アメリカに留学したことだそうです。いろいろな人がいることに驚き、将来はいろいろな人たち、国と仕事がしたいと思われたのだそうです。青年海外協力隊の時、現場に入って、障害者の教会の効率的な運営の強化に携わり、「とても楽しかった。」とおっしゃっていました。土井さんの少子高齢化に対する意見は、「地域社会で予防していくこと」でした。今の日本の人間関係が希薄であることを指摘し、今の仕組みをどう使い、低コストにするかが問われるそうです。土井さんの話を聞いていると確かにそうだ、といろんなことに気づかされました。これからはいろんな経験をして、知識を積み重ね、無駄にしないようにしたいです。

山田正実さんは3ヵ国に12年間滞在される等経験の豊富な方で、今はある企業の顧問を勤められていて、とても定年を過ぎた方とは思えませんでした。実際に海外で過ごした間は日本との違いに戸惑ったそうです。しかし、「海外での経験は非常に役立つ」とおっしゃっていました。また、グローバル化が西側(自分にとって強みがない)にとっては厳しいとい

う視点から、「自分にしかできない仕事や技術、自分にしかない強みを持ち、他人にとって代わられないように生き抜いてもらいたい」とおっしゃっていました。また、ネットを使って調べものができるようになったことについて「全部ネットで学べる訳ではない。自分が体験してはじめて学びになる」ともおっしゃっていました。

3人の方に頂いたお話はどれも素晴らしく、将来をよく考えることができました。また、「ああ、そうか」と自分ではじめて気づいたことも多くありました。とても気付きの多いプログラムになりました。

1日目の午後にあった企業訪問では、私たちの班は、東京都医学総合研究所のゲノム動態プロジェクトの研究室を訪問しました。私は、いつか研究者になりたいと思っていたので、このような貴重な経験ができてとても嬉しかったです。正井久雄先生をはじめとする、プロジェクトに携わっていらっしゃる方たちはあたたかく迎えてくださいました。正井先生が行っている研究はゲノムが変化することによっておこる疾患とそれの治療法を研究するというものです。まず、最初に研究室を見学させていただきました。研究室の中にはなかなか学校では見ることのできない装置や設備が並んでいて、驚きました。大腸菌や酵母を見せてもらったり、UVライトで照らされたブースに入らせてもらったりと、普段ならできないような特別な経験をすることができました。次に、別室で講義を受けました。その内容は、

- ・ DNA は複製するとき、30億塩基対のうち、1,2回しか間違わない
- ・ 遺伝子の数が多いから進化しているわけではない(ヒトとマウスの遺伝子の数は同じ)
- ・ DNA の変化→遺伝子の変化となり、このときに病気の原因が生まれたり、老化が誘発されたりするが人工的に治すこともできる (ゲノム編集)。このことから、病気や老化は普段のエラーの積み重ねであるといえる
- ・ DNA の変化は最小に抑えなければいけないが、DNA が変化しなければ生物界が freeze してしまう
- ・ ハンチントン病はハンチンチン遺伝子で cag という遺伝暗号が何回も繰り返されるが、それが何回繰り返されるかで病気になるかが決まる
- ・ 二重らせん構造を持つ B 型 DNA のほかにもいろいろな構造、形を持つ DNA がある
- ・ 光るタンパク質の作成
- ・ 細胞周期の進行をモニターするマーカー

です。先生は「原理を理解しないと応用はできない」ともおっしゃっていました。かの iPS 細胞も基礎的な研究から作られていったのだそうです。先生の話聞いて、DNA が発見されてから 63 年しか経っていないのにここまで研究が進むのはすごいなと思いました。また、何事も基礎があってこそなんだなと思いました。以前からの夢であった研究者になるという夢がより具体的になったと感じました。今回のような経験ができて本当に良かったです。1日目の最後に、二高 OB・OG 座談会がありました。私は東京大学に進まれた方たち 4 人

にお話を聞きました。多くが志望校決定のきっかけとして進振り制度を挙げていたのが意外でした。勉強面に関しては、授業に遅れないようにし、普段の授業を大事にすることや、やってない範囲でも一応見ておく、スキマ時間を勉強に使うことなどを挙げていました。モチベーションはしっかりと保つべきで、そのために、関連する分野を調べてみては、というアドバイスや、志望校を決めるときは偏差値だけで決めず、自分のことをよく知ってから、一ヵ月後、二ヵ月後、1年後、10年後どうなっていたいかを想像すると未来も自然に見えてきて、軸が定まり、行きたい志望校も決まるし、自分の軸を持っていると後悔しないというアドバイスもありました。東大生の方々には親身に話しかけてくださったり、話を聞いてこれからも頑張ろうと思えました。

2日目は、東京大学を見学しました。二つキャンパスがあり、最初は、駒場キャンパスに行きました。とても広く、新しく、立派な施設や銀杏並木があり、ただ驚くばかりでした。また、安田講堂を模して造られた1号館があり、工夫が凝らされていました。引率の方のお話では、その実験のためだけに作られた部屋もあるということで、それにはびっくりしました。一通り見学した後は **Fair Wind** の方たちの企画で「将来について考えよう」という企画に参加しました。まず、現時点での志望大学や夢について考え、その後、それを達成するには何をしなければいけないかを考えました。この作業で、私のぼんやりとした目標をしっかりと確立させることができました。また、東大生によるプレゼンテーションではキャンパスライフのイメージを持つことができました。次に本郷キャンパスに行きました。やはり、安田講堂はインパクトが大きかったです。しかし、安田講堂は卒業式くらいでしか使われないそうなので、学生として中の様子を見たいなと思いました。研究室見学では水圏生物化学の研究室に行きました。1日目に行った東京都医学総合研究所のようにフラスコやシャーレなどの実験器具がずらっと並んだ部屋もあれば、機械が壊れないように低温になっている部屋もありました。研究室の先生はとても優しく、顕微鏡でいろんなものを見せてくださったり、研究室の様子を話してくださったりしました。とても楽しそうだな、こんな大学に入りたいと思いました。

私は、今回この経験ができて本当に良かったと思います。研究所・大学見学や、**Fair Wind** の方達の企画など、普段体験できないようなことができたからです。また、東大生の方達との話は私にとって、これからの考える上での大きな後押しになりました。この経験を無にしないよう、一生懸命頑張っていこうと思います。